

おきなばし  
翁橋で発見された煉瓦舗装について

令和2年11月25日  
土木課  
歴史まちづくり推進室

## 1 場所と発見の経緯

翁橋は、津山市城西地区を南北に流れる<sup>い</sup>藪田川を渡る1級市道中央線（出雲往来）の橋として、西今町から宮脇町にかけて大正15年（1926）に建設された、橋長10m、幅員9.8mの市道橋である。

発見の経緯は、平成28年実施の橋梁点検後、昨年度に実施した現地調査の際、橋面の状態を確認するための試掘調査で発見されたものである。



## 2 煉瓦舗装で使用する舗道煉瓦とは

煉瓦について様々な視点からの収集・展示を行なっている舞鶴市の「赤レンガ博物館」に問い合わせたところ、見つかった煉瓦は「舗道煉瓦」ではないかということ。

舗道煉瓦の研究者である熊倉一見氏の論文によると、「舗道煉瓦は大正10年（1921）年ごろから昭和10年（1935）ごろまで車道用の不燃道路資材として製造された。その後、コンクリート、アスファルトに取って代わられたため、わずか13、4年という短期間で製造終了となり、道路舗装の事例はほとんど残されていない。」との記述がある。

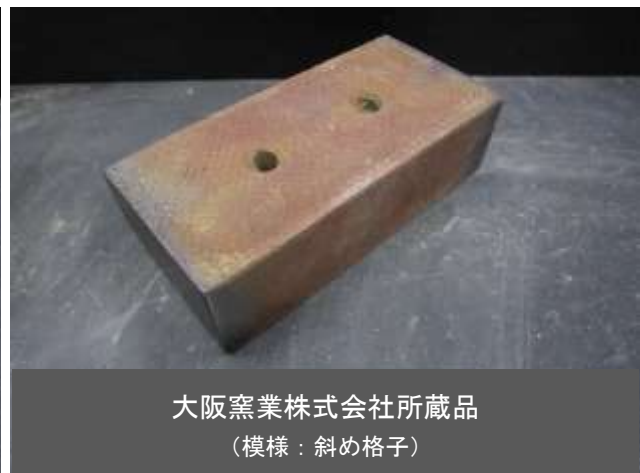
### 3 舗道煉瓦の形状

発見された舗道煉瓦は、大きさ210×90×80mm、重量3,400g、底面に当たると思われる箇所にはワッフル状の細かな格子模様の凹凸があり、「赤レンガ博物館」によると通常の煉瓦より舗道煉瓦のほうが硬いという。



### 4 現存する舗道煉瓦

煉瓦舗装が施工された当時、舗道煉瓦を製造していたのは大阪窯業株式会社や品川白煉瓦株式会社などで、「赤レンガ博物館」では大阪窯業製の舗道煉瓦2種を所蔵しているものの、ほかでは実物を確認できるものは多く残っていないものと思われる。



※サイズは一般のレンガと同じくらい（210×100×60mm）。

## 5 舗道煉瓦による舗装実態

土木遺産を研究されている元岡山大学教授馬場俊介氏によると「車道に煉瓦舗装をしている例は見たことがない。大正15年に建設されたRC橋は全国で11ヵ所残されており、岡山県では高梁市の宮下橋と翁橋だけである。全国的に見てもRC橋に煉瓦舗装が使用された事例は聞いたことがない。」「通常の煉瓦はその性質から欠け易く、車道の舗装材には向かない。煉瓦を建築材として多用していたイギリスでも車道はコンクリート系の舗装である。」とのことである。



## 6 今後について

煉瓦舗装が施工された当時は、城西地区が非常に発展した時期であり、当時の最先端の資材を用いて意匠にもこだわった舗装を採用した可能性もある。また、車社会の到来を見据えて舗装面の強靱化のため煉瓦舗装を施工したのかもしれない。

現時点では製造元の特定や煉瓦舗装に至った経緯のほか、試掘調査箇所以外の舗道煉瓦の保存状況など、まだ多くの謎が残っている状況である。

翁橋は、建設から94年が経過しているものの、現在でも城西地区における市民の往来には必要不可欠な橋の一つとなっている。

今後は、翁橋が近代化遺産に登録されていることや、城西地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定される見通しであることから、歴史的価値を損なわないよう慎重に補修・修繕方法を検討し、これからも多くの人々の往来でにぎわう橋として保存・活用して行く予定である。

# 位置図



# 拡大図

